

<4.指標>

指標名			目標・実績の推移					
			H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標
1	国際交流協会の交流事業年間参加人数	単位				700	750	900
		人	実績	635	867	663	617	665
		達成率				88.1%	88.7%	
2	外国語講座・日本語講座の年間受講者数	単位				40	40	40
		人	実績	59	35	37	59	44
		達成率				147.5%	110.0%	
2	国際交流ヴィラ年間宿泊者数	単位				900	950	1,300
		人	実績	1,157	629	794	983	828
		達成率				109.2%	87.2%	
3	大田市との交流事業年間参加者人数	単位				40	40	40
		人	実績	71	69	17	56	64
		達成率				140.0%	160.0%	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
・予算が許せば、リスクを考慮しつつ、修学旅行先を海外にすることも考えられます。	→ 修学旅行は、社会科等で学習した内容を実際に見聞きすることで理解を深めたり、集団での決まりを守るなど公衆道徳を身に付けたりするという目的があります。この目的を達成するために現在国内での修学旅行を実施しているところです。海外へということについては、費用面等の負担を考えたときには実現することについては不可能であると考えます。
・国際交流ヴィラ年間宿泊数について、平成25年度は若干持ち直している。HPを見たがその良さが伝わっていない。HPの充実を行い、レポート客やロコミ客を増やすようにしていただきたい。	→ 白石島国際交流ヴィラのHPは、ヴィラの予約受付事務を行っている岡山県国際団体協議会が作成しているものです。産業振興ビジョンのもと進めている観光振興の情報発信施策と連携を図りながら、ヴィラ管理の白石・島づくり委員会や岡山県国際団体協議会と情報発信の充実に努めてまいります。
・国際交流協会の事業について、在住外国人には困らないよう活動がされているが、市民へのPR不足が感じられる。	→ 笠岡国際交流協会には、本市の国際交流・多文化共生の中心的役割を担っていただいております。市民の皆様の御理解・御協力が得られるよう、笠岡国際交流協会と市のHPや広報紙等を活用して情報発信に努めてまいります。

<6.平成26年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	----------

<7.施策の課題と改善案>

課題と改善案 国際交流事業については、広く市民へ周知し、多文化共生について関心を持っていただく必要がある。笠岡国際交流協会の活動の周知も含めて、周知の方法を引き続いて連携して検討する。 大田市との交流事業については、交流事業推進助成金を活用する団体が限られてきている。友好都市関係の意識を広く市民に浸透させるため、新たな団体に交流を促すような助成金の周知方法などの検討を行う。 国際交流ヴィラについては、東日本大震災の影響による落ち込みから年々回復していた利用者数が再度減少した。外国人向けの地域資源の一つとして、引き続き産業振興ビジョンのもと進める観光振興施策と一体となった取組が必要である。
--

<8.委員による評価結果>

総合評価 A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	B
コメント			